

# 令和7年度 普天間第二小学校の取り組み

## 1 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」  
～主体的・対話的な深い学び合いのある授業づくりを通して～

## 2 研究主題設定の理由

本市の英語教育特例校授業計画の実施以来、ALTとのTT形式の取り組みを実施している。歌やリズム遊び、ゲーム、スキット、チャンツなどを取り入れて身近な英語を聞いたり話したり表現したりという活動の中で、児童は楽しみながら英語に触れ、慣れ、親しんでいる。

また、国際理解教育とつなげた学習に取り組むことで、異文化に興味・関心が高まってきている。児童からは、「英語は楽しい」「もっと英語を学びたい」「もっと話せるようになりたい」という声が聞かれた。

そこで、児童のモチベーションを高めるため、昨年度から引き続き今年度も、英語科においては、テーマを「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～主体的・対話的な深い学びのある授業づくりを通して～」とした。

英語を使って積極的にコミュニケーションを取る活動を進めるため、TPR (Total Physical Response ジェスチャー・視線など) を使った英語のコミュニケーションの方法を取り入れた。この活動は、英語で伝えることや英語を覚えることへの抵抗を少なくすることができる。また、楽しく英語に親しみ主体的・対話的な深い学びのある授業づくりが出来る。そうすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながると考えた。

さらに、外国への興味・関心を高めるため、国際理解教育とからめた活動を行うことで、本年度の学習の終わりには、「もっと英語を話したい」「もっと他の国の人と対話してみたい」等、主体的に対話したいという児童が増えると考え、本テーマを設定した。

## 3 学年・領域

教科として全学年で実施する。

- ・低学年（英語に触れる・慣れる）英語のリズムに慣れる。体を動かして、伝えたい気持ちを動作として取り入れる。
- ・中学年（英語に慣れる・親しむ）本のアルファベットからフォニックスの導入とTPRを取り入れた場面設定により、英語の聞き取り、簡単な意思表示ができる。
- ・高学年（英語に親しむ・使う）フォニックスに慣れ親しみ、簡単な英語を読み、書きとる、特定の場面における伝え合うことができる。（自己紹介・買い物・道案内等）

## 4 各学年の実践

### 1 学年の取り組み

- ① グリーティングで、今日の気分、天気、曜日、ルールの確認をジェスチャーを交えて行い、ウォームアップでハローソングを歌ってダンスをしている。
- ② フラッシュカードを活用して、反復練習を行い、発音と意味の確認をすることで、語彙の定着を図っている。
- ③ Boll Bomb ゲームなどのアクティビティを取り入れることで、児童が楽しみながら英語をインプットしていくことができた。



### 2 学年の取り組み

- ① 歌やダンスで体を使う、目で見るといった活動に取り組むことでアルファベットの形や発音を学ぶことができた。
- ② ゲームを通して、楽しみながら英語の表現に慣れ、英単語やその発音を覚えることができた。
- ③ 「クリスマス」や「お正月」など、世界の行事の祝い方の違いを学ぶことで異文化に親しむことができた。



### 3 学年の取り組み

- ① 授業のはじめには、リーダーを中心に、あいさつや天気・曜日・日付などを、声をかけ合いながら元気に確認しています。子どもたちが主体的に関わり、楽しくあたたかい雰囲気の中でスタートしている。
- ② 単元のはじめには、子どもたちと一緒に単元のゴールを確認し、これからどんな学びが待っているのかを見通しながら取り組むことができた。授業では、英

語の歌を楽しみながら歌ったり、発音を何度もくり返したりする活動を通して、耳で聞いて覚えたり、自分の声で確かめたりしながら理解を深めた。

- ③ 発音を確認したり、フォニックスの学習で音と文字のつながりを意識したりしながら、ゲームにも取り組みました。友だちとやり取りをしつつ活動することで、基本的な英語表現に親しみ、自然とコミュニケーションの力を伸ばすことができました。

活動の様子：たくさんの工夫がある授業を通して子ども達は楽しんで学習しています！！



#### 4 学年の取り組み

- ① 天気や気持ちに関する語彙を増やし、ウォームアップアップでは、あてられた児童が、自分の気持ちを伝えたり、その日のクラスリーダーが気持ちをみんなに伝えたりする活動を行った。
- ② 「This is my place」では、各教室や施設を英語で伝えられるよう練習し、タブレットを使用して校内を道案内する活動に取り組んだ。
- ③ クリスマスやお正月の行事では、カードに英語でメッセージを書いたり、福笑いでは、パーツを置く場所を英語で伝えたりするなど、児童が楽しめる活動を取り入れて、書く、話すの学習をすすめることができた。



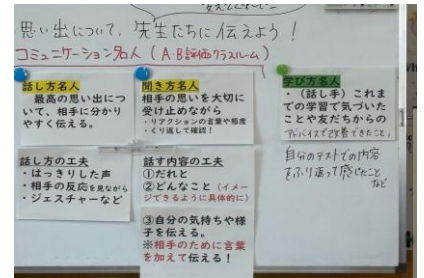
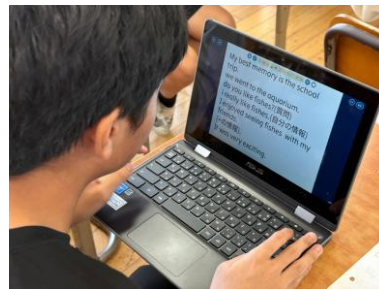
#### 5 学年の取り組み

- ① グリーティングでは、クラスリーダーがクラスメイトに対して天気やルールの確認をしたり、担任やALTの先生に気分を聞いたりする活動を行った。
- ② タブレットを使用して、課題に取り組み、毎回単元の最後には個人発表に取り組んだ。



## 6 学年の取り組み

- ① 毎單元ごとに「単元の山登り」を児童と共有し、ゴールまでに自分がどのような知識・技術を身に着けるべきなのか、どのように取り組んでいくかを明確にして単元を進めた。
- ② 授業の中で、会話活動の前後に Self-Time-Study（個別で自分にあった学習スタイルを選択する時間）を設け、自分が言いたい単語や表現をタブレットの音声教材を活用して学習したり、友達や先生に尋ねながらレベルアップを図る時間を設定したりすることで、それぞれが自分自身の課題解決のために主体的に学習に取り組む様子が見られた。



# Lesson Plan

4年

1.Topic: U7 What do you want?

2.Unit's Goal(単元目標): ・食材の言い方や欲しいものを尋ねたりする表現に慣れ親しむ。

・パフェやピザのオリジナルメニューを考えて、紹介することができる。

3.Target Words:What do you want? / I want (potatoes). / Vegetables (Onions, mushrooms, green-peppers, tomatoes, cabbages, corn, carrots, cucumbers, potatoes)/fruits (apples, bananas, cherries, oranges, kiwi fruits, melons, strawberries, peaches, pineapples)

過程	活動内容	教師の支援		Remarks 教材
	Activity	HRT	ALT	
あいさつ(5分)	1.《Greeting & Warm-up》 ①クラスリーダーが始めのあいさつをする。 ②Five Rules & Five Questions(ルールと質問) ③♪Alphabet Chant	・日直に号令を促す。 Class Leaders, come here please. Let's start our English class.	・リーダーの支援 ・チャンツのリード Let's do the Alphabet	電子黒板 Let's Try!
	導入	2.《Small Talk》 HRTとALTの会話を聞いて、今日のめあてを推測する。 Ss: 3,2,1 action!	ALT: Hello, ____先生、What do you want to put on your pizza? HRT: I want トマト、ピーマン、チーズ...on my pizza.	

	<p><b>3. 《Today's Goal》</b></p> <p>アクセントに気をつけて、野菜や果物を言ってみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを書いて確認させる。</li> </ul> <p>What's today's goal?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しを持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板で単元の活動内容を提示する。</li> </ul>
	<p><b>4. 《Practice &amp; Activity》</b></p> <p>① 《Let's Practice》 P26-27</p> <p>①教科書を見ながら、どんな野菜や果物があるか確認して、発表する。</p> <p>②野菜や果物の言い方をアクセントに気をつけて練習する。</p> <p>③「バナナじゃなくて Banana」を視聴しながら練習</p> <p>②【Let's Play】おはじきゲーム P26,27</p> <p>①誌面の絵から5つ選び、その上におはじきを置く。</p> <p>②先生が言ったものの上におはじきがあれば、そのおはじきを取る。</p> <p>全員) What do you want?</p>	<p>Open your text books.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな野菜や果物があるか尋ねて、発表させる。</li> <li>・絵カードを黒板に貼る。</li> <li>・絵カードを指し示しながら言わせる。</li> </ul> <p>Repeat after ALT.</p> <p>Let's play OHAJIKI game!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明の補足をする。</li> <li>・慣れてきたら、やってみたい児童を指名する。</li> </ul>	<p>Open your text books to P26-27.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音のモデル</li> <li>・Repeat after me.</li> </ul> <p>・ゲームの説明</p> <p>・児童の支援</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p><b>5. 《Wrap-up》</b></p> <p>①振り返りを書く</p> <p>②今日の授業の感想</p> <p>③終わりのあいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確認する</li> <li>・感想を聞く。</li> </ul> <p>How was today's lesson?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良かったところを褒める。</li> </ul>

## 5 成果と課題

### 低学年

- 歌やダンス、ゲームを楽しみながら、身近な英語表現に慣れ楽しむことができた。
- ゲームを通していろいろな英単語を覚えたり、発音したりすることができた。
- ALTと一緒に学ぶことで、子どもたちはネイティブな発音を学ぶことができた。
- AJTの先生に伝えたいという気持ちが表現の意欲へとつながった。
- 異文化に親しみ、興味を持つことができた。
- 今年度は振り返りシートを使用しなかったが、振り返りシートがあったほうがよい。

### 中学年

- Unit1で学んだ世界の国々のあいさつを毎時間くり返し使ったことで、世界をテーマにしたこのUnitの学習を、より身近に感じながら取り組むことができた。

○自己紹介や相手に質問するインタビューなどの活動を通して、友達と英語でやり取りする楽しさを感じながら、コミュニケーションに積極的に取り組むことができた。

○ゲームやタブレット学習を通して意欲的に活動するようになった。

○チャンツを通して、アルファベットや発音、単語などを覚えられるようになった。

○ALTとの連携が上手くいったため、楽しく活動ができた。

●アルファベットの大文字、小文字の定着が弱い。

●苦手意識がまだあるため、発表する児童が少ない。

Unitが変わると、それまでに覚えた表現とのつながりが分かりにくくなり、新しく出てくる英語表現が定着しにくくなる。

●フォニックスなどの細やかな発音指導については、音と文字の関係を正しく理解し、正確に発音できるようになるまで継続して取り組むことが必要。

## 高学年

○毎単元個人発表に取り組むことで、児童に自信がついた。

○板書等の工夫をし、既習事項を思い出させるように視覚的・聴覚的に伝えることで、既習事項を使いながら自己表現に取り組む児童が多かった。

○伝える相手（先生や家族、他学年の児童など）を明確にしたゴールを提示することで、相手意識をもって会話活動に楽しんで取り組んでいた。

○発表前に自分が言いたい内容を整理する時間を設けることで、定型文ではなく、習った表現を自分なりに工夫しながら自分の表現したいことを伝えようと取り組む児童が増えた。

●単元ごとの表現や単語が多く、単元が変わると既習事項を忘れてしまうことが多い。

●英語の文章を聞いて、単語から内容を推測しようとする子がいる。

●英文表記で書かれている文章の内容を考えずに回答する子がいる。

●6年生の単元では、自分自身について向き合い、自分の思いや気持ち、自分自身について相手に伝える活動や単元が多く、自分の気持ちを日本語でも伝えることが難しい児童がいたため、学級担任や他教科との連携が必要な場面もあった。

## 6 外部評価

成 果	課 題
○ALTとHRTの役割がはっきりしていて、授業が活発的。 ○児童たちが英語に興味関心を持ち、意欲的に授業に参加している。 ○HRTも授業内でわかる英語を使って学習を進めようとする姿が見られた。	●発表する児童が決まっている様子があり、うまく発表できない児童が主体的に発話しやすい場の設定が必要。 ●日常でしようしないため、授業だけの英語になってしまいがちで定着しづらい感じがある。簡単な日常会話を学級でも取り入れるとよい。

